

地域と学校が連携・協働した活動の推進方策について(答申) 概要

令和2年2月 群馬県社会教育委員会議

1 地域学校協働活動についてのとらえ方と群馬県における必要性

(1) 地域学校協働活動とは(文部科学省の定義)

- ・幅広い地域住民の参画を得て地域全体で子どもたちの学びや成長を支える活動
- ・地域と学校が連携・協働し、「学校を核とした地域づくり」を目指す活動

(2) 群馬県における地域学校協働活動の必要性

- ・県重要課題→「群馬の未来を担う人づくりの着実な推進」
- ・子どもたちを取り巻く状況の変化→社会総掛かりでの対応が必要
- ・子どもたちに地域への誇りや愛着をもたせていくことが必要

2 群馬県における地域学校協働活動の現状・成果と課題

(1) 現状・・・県内各地で実施されている様々な活動

- ① 学校支援活動(学校支援センター(※)のコーディネート)
・・・授業補助、登下校の見守り、環境整備 等
※県独自施策。H19までに市町村立全小中特別支援学校に設置済。
- ② 国庫補助事業(特定の事業に対し、国が予算化して事業費の補助を行っている活動)
・・・放課後子ども教室、地域未来塾、土曜日等の教育支援 等
- ③ 公民館における活動・・・文化祭、地区運動会、子どもを対象とした講座 等
- ④ 自治会、子ども育成会等の活動(地域活動)・・・お祭り、防災訓練、子ども会行事 等
- ⑤ NPO団体等の活動・・・放課後の学習支援活動、体験活動 等



学校支援センター推進の成果

学校における地域の教育力の導入は多くの学校で年間指導計画に位置づけられ、よい活動が継続する仕組みができています。すべての市町村立小中特別支援学校に学校支援センターが設置され、そのコーディネートにより学校支援活動が充実し、全国的にも早い時期に、全校に支援体制が整ったことは、大きな成果である。今後も、各学校の実態に応じた形での運用を続けるとともに、学校支援センターの成果を踏まえ、または生かし、多岐にわたる地域学校協働活動の推進につなげていくことができるとよい。

- 《令和元年度に実施した学校への調査》
- ・「学校支援センターが十分機能している」または「機能している」・・・100%
 - ・年間指導計画への活動の位置づけ・・・94.9%

(2) 成果

- ・小規模公民館を中心に地域の特徴を生かした取組がなされていること
- ・特別派遣社会教育主事や地域コーディネーターの活躍により活動が推進していること

(3) 課題

- ・活動が単独で行われていることが多く、情報やビジョンの共有を図ることが不十分
- ・学校と地域の情報共有が不十分であり、意識のギャップがある
- ・核となる人材・コーディネーターの不在・不足
- ・地域の特性の見極め、地域のよさを生かした企画・立案が各地域で必要

3 提言(具体的な推進方策)

提言1

公民館を核に連携・協働を



提言2

地域と学校の目標・ビジョンの共有、個別の活動から総合化へ



提言3

地域と学校の連携・協働の核となる人材の育成



提言4

地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的推進



4 提言に関わる県内事例(モデル事例)の紹介

(※ CS = コミュニティ・スクール)

(1) 提言1に関わる事例：公民館を核に地域と学校が連携・協働した取組

- ・きよさと焼体験学習(前橋市：清里地区)
【ポイント】公民館が連携・協働の核になり、地域づくりにつながる効果的な活動の実施と「社会に開かれた教育課程」の実現が両立
- ・チャレンジ!!通学合宿(館林市：渡瀬公民館他)
【ポイント】公民館のコーディネートのもと通学合宿実行委員会が地域学校協働本部の役割を担い、お互いの顔が見える関係を構築

(2) 提言2に関わる事例：地域と学校の目標共有のもと活動が有機的につながる総合化・ネットワーク化の取組

- ・川場村ふれあい学習推進協議会の取組(川場村)
【ポイント】ふれあい学習推進協議会が地域学校協働本部の役割を担い、目標共有のもと、関係者がつながりネットワークを形成

(3) 提言3に関わる事例：地域と学校の連携・協働の核となる地域人材育成・活用の取組

- ・地域学校協働活動推進員がつなぐ地域学校協働活動(高山村)
【ポイント】連携・協働の核となる地域学校協働活動推進員を委嘱し育成に努めることで、よい活動が無理なく続く仕組みを確立

(4) 提言4に関わる事例：地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的推進についての取組

- ・学校・家庭・地域が一体となって取り組む挨拶運動(伊勢崎市：宮郷地区)
【ポイント】CSにおける熟識から、実働を担う地域学校協働本部としての挨拶運動推進協力委員会を立ち上げ、活動をコーディネート
- ・CSとの連動による地域学校協働本部の活性化(下仁田町)
【ポイント】地域学校協働本部とCSとの連動により、学校のニーズと地域資源の特性がマッチした質の高い活動の実施が可能に
- ・学校支援センターを核としたCSの取組(高崎市：吉井西小)
【ポイント】CSにおける熟識により学校支援センターの機能がさらに充実し、質の高い学校支援活動と「社会に開かれた教育課程」が実現

5 教育行政に期待すること

教育委員会に期待すること

- ・積極的な情報発信、広報・普及活動、モデル事例の紹介
- ・系統だった人材育成のための施策の展開
- ・多種多様な主体とつながるネットワーク型行政の実現
- ・積極的な社会教育主事の発令、公民館への社会教育主事配置の推進
- ・地域の特性の見極め

社会教育主事・公民館職員に期待すること

- ・学びのオーガナイザーとして連携・協働の核に
- ・社会教育主事等のネットワークの形成を

